

高等学校における通級指導教室での進路支援

ー ライフスキルの向上をめざして ー

学籍番号 249214

氏 名 富村 佳枝

主指導教員 瀧野 揚三

副指導教員 高橋 登

1. はじめに

実習校の高等学校では、通級による指導が行われている。通級による指導を開始した当初、通級による指導とはどのような制度で、どのように進めたらよいのか、十分理解できていなかった。そこで、実践課題研究では、教育制度等の視点や実態をふまえ、実習校における通級による指導のありかたについて考えていくものとする。

2. 通級による指導について

通級による指導とは、大部分の授業を小・中・高等学校の通常の学級で受けながら、一部、障害に応じた特別の指導を特別な場（通級指導教室）で受ける指導形態で、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服するため、特別支援学校学習指導要領の「自立活動」に相当する指導を行うものである。平成5年から小・中学校で制度化された。平成30年度より、高等学校において通級による指導が制度化され、大阪府でも現在は11校の府立高等学校において通級による指導が行われている。指導に当たっては、特別支援学校小学部・中学部・高等部に示されている自立活動の6区分27項目の内容を参考にする。

高等学校において、通級による指導が開始されるに至った経緯として、「小・中学校における通級による指導を受けている児童生徒の増加」や「小・中学校等からの学びの連続性を確保する観点」から、高等学校においても通級による指導を導入する必要性が指摘されてきたという経緯がある。また高等学校における通級による指導が制度化されたことにより、「インクルーシブ教育システムの理念の具現化」、「学びの連続性の確保」、「生徒一人一人の教育的ニーズに即した適切な指導及び必要な支援の提供」の3つの効果が期待される。

3. 実習校における通級による指導の現状

実習校では、指導形態として、生徒が在籍する学校において指導を受ける自校通級としている。対人関係のコミュニケーションに不安をかかえる生徒が多いため、指導の中からコミュニケーションをとる機会を設けるために、少人数で指導を行っている。また、指導の時間を確実に確保できるよう、選択教科・科目の一部に替えることで指導を行っている。

高等学校卒業後に、福祉系就労施設を進路とする生徒が増えてきている。そこで、対象生徒が利用している外部の福祉サービスと連携することで、通級による指導を受けている

生徒への指導・支援の充実を図ることを目的とした。また、通級による指導で、ライフスキルの向上を目標とした指導を継続的に行うことができるように、通級による指導の内容を整えていくということも目的とした。

4. 放課後等デイサービスとの連携

実習校において、通級による指導を受けており、放課後等デイサービスを利用している生徒を対象として、放課後等デイサービスとの連携を行った。連携の方法としては、対面、電話で情報共有を行い、その情報をもとに、対象生徒への働きかけを行った。放課後等デイサービスと、対象生徒の保護者は高等学校卒業後の進路先として、福祉系就労施設を検討していたが、対象生徒はかねてより大学進学を希望していた。複数回の働きかけを行った結果、対象生徒は、年度当初は大学進学を希望していたが、進路先の検討を重ねるなかで福祉系就労施設への進路を希望するようになった。継続的な支援の結果、希望する進路が決定した。

5. 実習校における通級による指導

ここでは、WHO が定義しているライフスキルの 10 のスキルを、学習指導要領に示されている自立活動の 6 区分 27 項目の 6 区分に分類することで、指導内容の検討を行った。具体的な内容として検討したものは、自身の今までからこれからのことについて、アサーションについて考えるための教材作成である。自身の今後について見通しを立て、どのような準備が必要か等を考え、行動に移してほしいという願いや、高等学校を卒業すると、さらに多様な人たちとの出会いがある中で、自己表現について学び、自身がしんどくならないようなよりよい対人関係について身につけてほしいという願いから教材の内容を検討した。

また、通級指導の年間計画も考え、今後の指導に活かすことができればと考えている。

6. 成果と課題

放課後等デイサービスとの連携による成果としては、対象生徒へ有効な働きかけができたことである。課題としては、情報共有の中身をさらに充実させることができるよう、情報共有の方法などについて検討が必要である。

ライフスキルの向上をめざした継続的な指導については、必要なスキルについての検討ができたことは成果である。課題としては、実際に教材を活用することができず、効果の検証等まですることができなかったことである。

7. 実習校における通級による指導の今後の展望

通級による指導が継続的なものとなるよう、「チーム学校」として対応することができるよう、教職大学院で学んだ理論を活かして、今後も実践を進めていくことである。そのためにも、主幹教諭という立場から、管理職に相談し、校内の体制や組織づくりができるように検討していきたい。そして、実習校における通級による指導が、継続的に充実したものになるように推進していきたいと考えている。